ひとりごと

「農業クラブの存在」

私は秋田県の農業高校での25年間の教員生活を離れ、4月から配属となった産業教育振興室では毎日新鮮な気持ちで勤務している。

農業教員を目指したきっかけは、教師になるのが夢だったからとか、憧れの教師がいたからという訳ではない。大学時代のある友人との出会いがきっかけとなっている。

私自身は普通科高校出身であり、大学で農学部を選択。果樹園芸を営む家に生まれ、学問としての生物が好きであったため、将来的には農業技術を指導する立場から地域農業の活性化に貢献できれば良いと考えて選んだ。

大学時代は、全国から集まった仲間と交流できた。学外の人を含め、幅広い年代の人たちと楽しんだり、朝まで語り合ったりして刺激的な毎日であった。仲間に恵まれて最高の学生生活を送ることができたと思う。その中で、農学部の同じ学科に青森県の農業高校出身のK君がおり、交友を深めた。農学の専門講義では、私の疑問点に対して、その場で分かりやすく解説してくれて助けられた。

ある日K君から「農業クラブを知ってる?」と聞かれた。普通科高校出身の私は、当然ながら知る由もない。「農業クラブとは、全国の農業高校生で構成される約10万人（当時）の組織で、県内でも多くの種類の大会や研修会がある。東北大会を勝ち上がると高校野球の甲子園のような全国大会に出場できる。高校時代は全国副会長だったので日本中の仲間はもちろん海外の農業クラブ員とも交流した。」という内容を楽しそうに話してくれた。私は、農業クラブという名前なので、農業好きが集う単なるクラブ活動の一種かと思っていたが、K君が高校時代から幅広く交流・活躍してきたことを聞き、当時の私の大学受験対策主体の高校生活では到底考えられないことであったので羨ましく思い、農業高校の魅力を感じた。

そしてK君は、「将来は母校の農業教員として勤務し、農業クラブを活性化させたい。」と目標を語ってくれた。農業高校と縁が無く、農業教員という職業すら全く知らなかった私であったが、K君の熱い話に刺激を受け、洗脳されたかのように私も教職課程を選択。いつしか私も農業教員を目指すようになったのである。

その後K君は夢を叶え母校の農業教員として勤務。生徒の農業クラブ活動を通して高校生で国内初のグローバルGAP認証を果たす等、K君の指導のもとで次々に先進的な取組が成功。地域農業活性化のモデルとなり、全国的に注目される農業高校になった。K君の活躍は私の目標であり、農業クラブの大会引率や農業教育研究協議会等で再会する度に、情報交換する仲間としてありがたい存在である。

農業クラブの正式名称は「日本学校農業クラブ連盟」であり、通称は「農ク」または「FFJ（Future Farmers of Japan）」。今年の第76回FFJ全国大会は10月22～23日の日程で東京都・神奈川県・山梨県を会場に開催され、約5千人の参加が見込まれている。読者の皆様にも農業クラブ活動を通した農業高校生の活躍に是非注目していただきたい。

（T.F）

「教育委員会月報　令和７年９月号　No.911」

・**発行・著作** 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
・〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
・TEL：03-5253-4111（代表）
・URL：https://www.mext.go.jp

文部科学省